

「ジャパン・ルネッサンス」に挑む！

〜日本復興を牽引する三つの変革軸〜

大地震、大津波、レベル7の原発事故の複合災禍に見舞われ、半年近くがたつ。生産水準の急速な回復に加え、心理的な落ち着きも広がり、復旧への動きも軌道化。だが、その一方、原発事故の収束メドはなお不透明で、今夏はまさに「節電の夏」。多数の方々が依然行方不明なうえ、避難や仮住まい、失職や生活難など不安は居座ったまま。将来日本になお確とした展望は開かれていない。

ではいかに満身創痍の日本に突破口を開け、新しい日本の構築への道筋を付けられるか。この設問こそいま、真摯に取り組むべきナショナル・イシューだ。この課題は第二次世界大戦後の「戦後復興」

以来の、「第二の復興」をいかに成功させるかに集約される。それ故に戦後60年間の総括の上に、旧体制の転換を図ることを意味する。だから、従来の国家設計の概念や立国モデルから離れて構想される必要がある。だが巷間の、多くの復興計画は対症療法的な諸施策の総動員の趣が強く、「日本復興」に挑む戦略的構想力に欠く。

大震災前の状況への「原状回復」であれば、眼前の諸問題を大車輪で手当たり次第に解決するのがベスト。だが、それは震災後1〜3年の「復旧過程」での話で、それでは日本経済が震災前の状況に「復旧」するだけで、「日本復興」ではない。というのも本

年3月11日の東日本大震災以前の日本経済の状態を振り返れば一目瞭然。90年代、2000年代と日本経済は「失われた20年 (two lost decades)」に陥っているからだ。

この20年間の年平均実質成長率は0.8%の低空飛行。実は1990年代初めのバブル崩壊とは戦後日本のキャッチアップ体制終焉の吊鐘だった。だが、この歴史的転換に気づかず、日本はキャッチアップ体制の成功神話に浸り安眠を貪った。これが「失われた20年」。この点で今次大震災は日本を長期的停滞から脱却させる、禍を転じて福となす絶好の機会になる。日本復興計画は「復旧」を超え、新たに輝く日本を再創造して

いく「ジャパン・ルネッサンス (日本再復興)」に挑む歴史的企业として捉えるべきなのである。

では「日本復興」を具現化するにはどうするか。幸い日本にはいま復旧・復興に向かう国民エネルギーが溢れる。ただ、この膨大な国民エネルギーはこのまま放置されれば、さまざまな問題群の解決に向かつて拡散さらに霧散し、日本復興の原動力に集結されずに終わる。だから燃え上がる国民の諸力を集集、方向づける「結晶母」か「復興の支柱」が国民の眼前に提示されねばならない。これを日本再復興 (「ジャパン・ルネッサンス」) の牽引車とすれば、三つの「変革軸」

齋藤 精一郎

SAITOH, Seichiro

に集約可能だ。

第一軸は戦後復興で安定的なエネルギー供給を担ってきた、従来の10地域分割型のエネルギー体制をどう再構築するかだ。今回の福島第一原子力発電所の事故で原子力依存から再生可能エネルギー転換の議論が世界的にも沸騰しつつあるが、21世紀を担うエネルギーのベストミックスは何か、実現可能な持続的エネルギー供給システムとして国民認知を結集した論議が待たれる。

何時、いかに代替していける

か、大局的かつ戦略的でフィー

ジブルな論議が不可欠である。

第二軸はグローバルな供給

網（サプライチェーン）

の再構築の動きの中で、日本

産業の「空洞化」にいかに対

応していくかだ。今次大震災

で日本の部品産業が国内だ

けでなく、世界的な供給網

にがっちり組み込まれて

いる「現実」が明らかになっ

た。寸断した供給網の修復は

急ピッチに進むから、その正

常化は時間の問題。だが、こ

れで一安心とはいかない。今

回の寸断で内外企業の多くが

日本国内の部品メーカーを組

み込むサプライチェーン体制

に強いリスクを抱き、世界的

次元で供給網の再構築に動き

出しているからだ。日本のグ

ローバル企業は国内の部品企

業に海外への進出を促す一方、

供給網再構築の一環として海

外でのM&Aを急増させる。

中小の国内部品メーカーも従

来になく海外進出（事業の提

携・委託・合併やM&A）に

意欲的。海外企業も日本国内

からの調達リスクを意識、日

本以外での再編を画すほか、

日本のエネルギー不安定化を

考え、日本への直接投資に慎

重さをみせる。この結果、日

本産業の「空洞化」が今後一

段と拡大しかねない。まして

新興経済との賃金格差やその

内需市場の急拡大を勘案すれ

ば、日本の「空洞化」の流れ

は止めようがない。震災後に

勢いを増す「産業空洞化」に

真つ正面からどう対応するか、

摺かつ戦略的な論議は不在のま

まだ。

第三軸は急激な高齢化のも

と疲弊化を強める地域社会を

多様に再興すべく、地域主権

体制をいかに具現化するかだ。

現時点では「一億ガンパロー

魂」の復旧・復興の熱気で、

日本全国は燃え上がっている

が、復旧過程が終了する3年

後前後から地域社会や地域経

済の疲弊化が全国的に目立っ

てくる。高齢化に前述の「空

洞化」が襲ってくるからだ。

地域再興には「脱中央集権」

と「廃県置州」を基本理念に

21世紀型統治革命を待つほか

ない。将来日本の命運はまさ

にこの一点にかかると。地域再

興なくして「ジャパン・ルネッ

サンス」はありえない。 [J]